

遠賀川流域の歴史

遠賀川工事事務所 尾木幾子

1. はじめに

最近、国民の環境意識の高まりの中で「河川は流域の文化、歴史に重要な役割を担い、人々の生活を発展させてきた」という認識も高まってきた。そこで、遠賀川の担った役割を流域の自然環境や歴史を通して、究明することで、この資料が地域住民との共通の話題として提供できればと願うものである。

2. 遠賀川流域の現況

馬見山を源とする遠賀川は、流路延長61km、流域面積1030km²、流城市町村は6市25町1村で流域内人口698,256人の一級河川で生活圏域は福岡、筑豊、北九州の三つに分かれている。

3. 流域の歴史

古代から現在まで地形の変化、遺跡や発掘資料、文献等を基に、集落の発達、文化・産業の発展、水害や治水・利水の歴史などにまとめてみると次頁の年表のとおりである。

古代の遠賀川流域は「古遠賀潟」と呼ばれる湾であった。貝塚の数も福岡県内で一番多く、最奥の貝塚は河口から約16km上流にあり、河口の貝塚からは縄文後期の人骨が出土している。

弥生時代には陸化が進み、水稻栽培の最適地となり稻作が定着する。数多い遺跡の中で全国屈指の「立屋敷遺跡」と「立岩遺跡」が発掘され、甕棺墓群や副葬品などからこの地域の最高権力者がいたと思われる。

古墳時代を代表する遺跡に、「玉塚古墳」と「竹原古墳」があり、共にこの時代の代表的な装飾古墳と言われている。また、下流域には共同墓地である装飾のある横穴墓が多数見られる。

10世紀に出された「延喜式」によると筑前15郡に都衙が、豊前国に6座が置かれ、太宰府へ通ずる交通の要所に筑前国に夜久、島門、伏見、網別、豊前国には田河などの「駅」が置かれ、仏教文化が発展する。

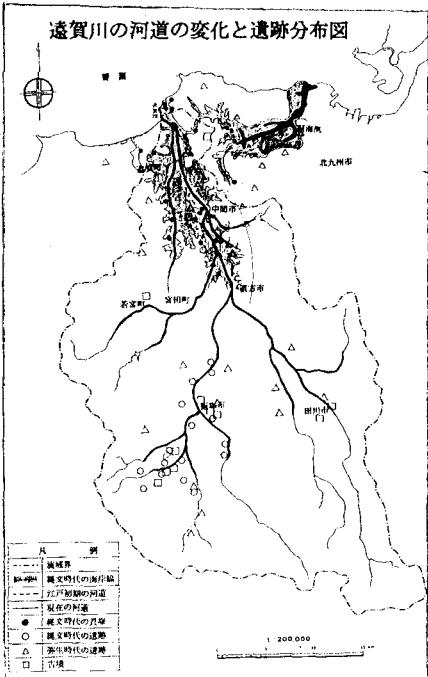
12世紀頃には都へ貢物の「鎮西米」を送るために底の浅い川舟「ひらた」で川を下る水運が発達した。

室町時代には雪舟や宗祇がこの地を訪れ、雪舟は「龜石坊庭園」や「魚樂園」などの庭園を宗祇は紀行文「筑紫道記」を残している。また、良質な砂鉄を用い、名声を博した茶の湯釜「芦屋釜」が生まれた。

1600年黒田長政が筑前に入封し、文化・産業面で画期的に進展する。1612年本川改修と堀川開削の大計画を打ち出し、1613年築堤や新川掘削等の工事に着手し、1628年完成。現在のような流路となり、1748年の普請で河口近くは現在の姿となった。一方、堀川開削工事は1621年着手したものの一時中断し、1804年寿命より折尾金山川まで16,000m、川幅8~18mの堀川が完成した。治水目的で開削された堀川も開通後は、利水と舟運の役割に変化していった。また、これらの治水事業に加え、沼沢や浮州の埋立て、新田開発を行い、1621年漆生用水、1660年花ノ木堰、1774年岡森堰、1838年五か村用水が完成し、石高も増加していった。

遠賀郡香月村(1478)と田川(1587)で石炭が発見され、江戸時代には本格的に採掘され始め、1837年福岡藩は石炭専売の仕組み法を実施。この頃遠賀川は舟運が盛んとなり、福岡藩も小倉藩も水運を重視し「船場」や「盤」を設け米や石炭、櫻の実、生蠣、材木、瓦、鶏卵、紙などに通行税をかけるようになった。

1871年廃藩置県の詔が出され、1876年現在の福岡県が成立し、旧藩の境界は消え、遠賀川流域は筑豊地域と呼ばれるようになる。北九州工業地帯が生まれ、大手資本の参加により筑豊炭田が最盛期を迎え、1891年



若松・直方間に鉄道が開通し、石炭輸送も舟運から鉄道へと移っていく。

明治に入ってからも洪水が頻発し、1906年内務省直轄の河川改修工事に着手、1919年3月総額4,860千円を費やし第一期改修工事を終了した。その後、昭和20年10月15日より直轄河川となり、現在に至っている。

4. 最後に

以上のように遠賀川流域の歴史は、奥行きが深く、遺跡や発掘資料から富裕で文化的に高度な地域であったことが伺える。この偉大な歴史を未来を担う子供達に引き継ぐことが我々の役目である。

現在、住民は河川敷で様々なイベントを実施している。今後は、流域の歴史を踏まえ、地域住民や行政と共に治水・利水はもとより、生態系や環境に配慮しながら整備を進め、潤いとやすらぎのあるふるさとの川として役割を担うべきであろう。

遠賀川流域の年表

	流域内 の 出 来 事	暮らしと文化・産業の発展	治水・利水・舟運の変遷	洪水・渇水の記録
先史・古代	旧石器時代：沙井掛遺跡、椎ノ木山遺跡 縄文時代 山鹿貝塚、天神橋貝塚、古月貝塚等 古宮遺跡、合田遺跡、ズイバガ原遺跡 弥生時代 夏井ヶ浜遺跡、砂山遺跡、立黒敷遺跡、 立岩遺跡（石包丁製造跡、斐庭墓、前漢鏡 古墳時代 王塚古墳・竹原古墳（装飾古墳）ヒドノ古墳 瀬戸横穴、垣生羅漢百穴、鹿毛馬神籠石 屯倉（總波、繫）を置く(807) 奈良・平安時代 藤原広嗣の乱(740) 日本書紀に「山鹿岬・岸浦・岸の水門」 風土記に「岸懸」 觀世音寺「山鹿莊」 「芦屋津」の頗るい文献に初出(1097) 山鹿水軍艦ノ浦の合戦で善戦(1185) 平家滅び領主交替	自然の食料資源での生活 縄文土器、磨製石斧、貝輪等		大地震(679) 旱魃、不作(706) 旱魃(803) 旱魃(806) 旱魃(841) 旱魃(1503) 芦屋洪水(1610) 筑前大風雨(1613) 希世の大雨(1620) 筑前国旱魃(1626) 遠賀川洪水(1670) 大旱魃(1680) 大旱魃(1681) 旱魃(1692) 夏秋間洪水(1699) 大雨・大風(1702) 遠賀川洪水(1726) 旱魃、大雨(1729) 大旱魃(1732-33) 洪水(1738) 大旱魃(1757) 旱魃、大雨(1762) 大旱魃(1768) 遠賀川洪水(1767) 大旱魃(1788) 旱魃(1770-71) 大旱魃(1780) 大旱魃(1783-1784) 大洪水(1777-1790) 大水土手切(1804) 旱魃(1809) 大風雨(1814) 希世の大風(1828) 夏中洪水(1836) 大洪水(1840) 本川筋大水(1847) 下流土手切(1850) 大旱魃(1853) 大洪水(1860) 大旱魃(1873) 大暴雨(1884) 洪水土石流(1889) 大洪水(1890-1891) 大旱魃(1893) 大旱魃(1894) 大旱魃(1897) 大雨・山崩(1900) 大洪水(1905) 大旱魃(1913) 大洪水(1922)
中世・鎌倉時代	北条氏より麻生氏へ所領付与の文書(1249) 元寇(文永・弘安の役) (1274-1281) 室町幕府の御陵所となる(1334) 足利尊氏、芦屋津に上陸(1336) 山鹿城址火葬墓(1388-1386) 麻生氏朝敵へ遣使(1406) 応仁の乱(1467-1477) 大内氏滅び(1551)麻生氏移封(1587)	建武4年の年号の石造宝塔(1337) 雪舟作「龜石坊庭園」「魚樂園」 遠賀郡香月村で石炭発見(1478) 京祇の紀行文「筑紫道記」(1480) 芦屋釜制作最盛期(1510頃) 芦屋鍋物飾全国に収集(1551) 田川で石炭発見(1587)	堀川開削を計画(1620) 改修工事始まる(1621) 漆生用水を発起(1621) 花の木堀普請(1656-1658) 河口附近大改修(1744) 堀川開削工事再開(1755) 堀川完成(1758) 中間磨戸完成(1762) 岡森堰完成(1774) 水粉争(1798-1827-1868) 寿命磨戸完成(1804) 西川延長開削工事(1808) 五か村用水完成(1838) 福岡藩「船場」の指定 小倉藩船場「鑿」に指定	渡し舟で川を渡る (赤地渡し、境渡し)
近世・江戸時代	黒田氏入封(1600) しろうおを放逐(1623 ~1654) 東運寺藩設立(1623)後に直方藩に(1675) 筑前六宿の制を定める(1642) 芦屋三里松原に松の植林始まる(1655-1680) 御牧郡から遠賀郡へ改名(1684) 江戸へ人々が江戸奉書陣中立ち寄る(1691-1692) 芦屋大火 500戸消失(1708) 直方藩廃止(1720) 享保の大飢饉(1732) 俄約令が出される(1733) 天明の大飢饉(1782) 石炭採掘を他所者に許可(1803) [田川] 伊能忠敬筑豊地方を測量(1811-1812) 天保の大飢饉(1833-1836)	高取焼始まる(1600) 母里太兵衛内野宿を設置(1612) 高取焼飯坂へ移る(1630) 高取焼小石原へ移る(1685) 石炭採掘始まる 福岡藩植栽獎励(1741) 蘆芽芋の作付けを奨励(1783) 蠅子策に蠅油の使用獎励(1782) 芦屋千軒の繁栄(繁榮日記1793) 福岡藩の専売制を確立(1796) (博多・甘木・櫛木に壇座) 焚石・生糞・糞卵会所(1837) 糞卵会所廃止(1842) 赤池石炭会所設立(1844)	川舟による石炭輸送全盛 (1888) 鉄道開通で舟運衰退 内務省直轄遠賀川改修 工事着手(1906) 工事終了(1919)	
近代・明治・大正時代	福岡県成立(1871) 筑前竹槍一揆(1873) 九州鉄道博多・遠賀川開通(1890) 筑豊興業鉄道若松・直方間開通(1891)	「五都石炭抗業組合」(1885) 「筑豊石炭鉱業組合」(1893) 大手資本進出で筑豊炭田最盛期 筑豊初の炭鉱爆発事故(1899) 「炭鉱節」の原型ができる(1909)	川舟による石炭輸送全盛 (1888) 鉄道開通で舟運衰退 内務省直轄遠賀川改修 工事着手(1906) 工事終了(1919)	